

SOMPO美術館 × Bon Marché Special Edition  
Sompo Museum of Art

【広告特集】

企画:朝日新聞社メディアビジネス局  
編集:総合プロデュース本部ボンマルシェ編集部  
AD:白石良一 デザイン:丸山太夫(白石デザインオフィス)

# SOMPO美術館は 新しい東京の“アートランドマーク”です!

新宿駅から徒歩5分、損保ジャパン本社ビル敷地内に新築されたSOMPO美術館。  
気軽に立ち寄れる、アクセス抜群の新たなアートのランドマークを、ボンマルシェアンバサダーがいち早く体験!  
(撮影:小野祐次/取材:文・安藤麻穂子/構成:ボンマルシェ編集部)

※写真は「開館記念展」の展示風景



## ボンマルシェアンバサダーが鑑賞

# 名画で気軽に“脱日常”のショートトリップ

ガラスの曲線が印象的なエントランス前で、左から、川田さん、吉原さん、廣江さん。  
※お互いの間隔を考慮し、短時間の撮影の間のマスクを外しました。

広々として鑑賞しやすい展示会場。  
右手前はゴッホの《ひまわり》。左手前はセザンヌの《りんごとナブキン》。



1976年に新宿の安田火災海上(現・損保ジャパン)本社ビル内に開館し、長きにわたり親しまれた「東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館」が、今年7月、敷地内の新しい単独の建物に移転。「SOMPO美術館」として生まれ変わりました。この日、川田裕美子さん、吉原亜季さん、廣江菜摘さんのアートが大好きなボンマルシェアンバサダー3人が新しくなった美術館を訪問! 名画をじっくり鑑賞する貴重なひとときを体験しました。

まずは、エントランス前で記念写真をパチリ。中央に飾られているのは、当館収蔵のフィンセント・ファン・ゴッホの代表作《ひまわり》を陶板で制作したもの。絵の具の凹凸まで忠実に再現された精巧なモニュメントを前に、期待は高まります。

SOMPO美術館では、取材当時「開館記念展 珠玉のコレクション」と題し、所蔵品から選りすぐりの名品を紹介。ウェブサイトなどで事前に日時指定のチケットを購入する予約入場制を実施していました。入場人数がコントロールされ、館内はマスク着用が義務付けられているので、落ち着いて作品鑑賞ができるのもありがたいところです。

さあ、館内へ! 入り口を入ったらすぐに検温と手指消毒を済ませ、エレベーターで5階へと上がり、1フロアずつ下りながら鑑賞するのがSOMPO美術館の順路です。

最初に3人が目を輝かせて足を止めたのは、東郷青児の絵画の前。「美術館のロゴマークを見たときに、何だろう?とと思っていたのですが、この作品のモチーフだったんですね」と川田さん。手袋と靴下を片方だけ身に付け、月に向かって浮かぶ人が描かれ、「想像力を刺激する不思議なロゴマークは、心の豊かさを育む場所でありたい」という当館のメッセージを体現しています」との説明に、一同、納得。こうした発見があるのも、美術鑑賞の妙味です。東郷青児の作品は、当館を代表する収蔵作品。遺族から約150点の寄贈を受けたことをきっかけに、現在は初期から晩年までの作品約240点と資料群を収蔵しています。抽象画から「青児美人」ふうたわねの愛らしいポートレートまで、さまざま



東郷青児の作品を前に。左から「超現実派の散歩」、「四重奏」、「ハイオレット」、ベンチに座ってゆっくり鑑賞できる。

な様式にチャレンジした東郷青児の変遷を鑑賞することができます。

3人が次に笑顔で足を止めたのは、同じ当館収蔵のセザンヌやルノワール、ゴーギャンの名画で、撮影OKなスポット。早速スマートフォンでスナップ開始。撮影可能な作品は、ピンクや赤、グリーンなど、背景の壁の色を変えてあり、写真映えすること間違いナシです。

そして、最後を飾って目の前に登場したのが、ゴッホの《ひまわり》! 光の反射が少ない特殊なガラスの中にあるため、近い距離でじっくり鑑賞できます。「やはり、生で見ると感動が違います」と川田さん。「筆遣いなど細かいところまでじっくりと見ることができました」と吉原さん。

そして、憧れの名画との対面の興奮も冷めやらぬまま、3階から2階の

休憩スペース・ミュージアムショップのフロアへ。天井が高く大きな窓のある空間は、一気に開放感が味わえます。「街路樹の緑が窓一面に見えて、一瞬、都心の新宿にいることを忘れていました」と廣江さん。「この休憩スペースは、撮影した写真を整理しながら作品の余韻に浸れませんか」と吉原さん。同じ空間にあるミュージアムショップには、ポストカードやクリアファイルのほか、《ひまわり》モチーフのアクセサリーやバッグも。

SOMPO美術館は、新宿でのショッピングなどの合間に、気軽に脱日常のショートトリップが楽しめる新たなアートのランドマーク! 「何度でも足を運びたいですね。また、近いうちに来ます!」が3人共通の締めくくりに。この秋、あなたも名画と感動の再会を!



ゴッホの《ひまわり》。迫力ある筆遣いに見入る川田さん。



ルノワールの「帽子の娘」(左)と「浴女」(右)を撮影する、廣江さん(左)と吉原さん(右)。



大きな窓のある休憩スペース。ソーシャルディスタンスを守った配置。



魅力的なオリジナルアイテムがそろうミュージアムショップ。

SOMPO美術館  
Sompo Museum of Art

住所:東京都新宿区西新宿1-26-1  
電話:050-5541-8600(ハローダイヤル)  
開館時間:10:00~18:00(入館は閉館30分前まで)  
休館日:日曜日/展示替替期間/年末年始  
※祝日・振替休日の場合は開館

新宿駅から徒歩5分の好立地  
http://www.sompo-museum.org

オンライン美術館もご覧ください!

## Information 芸術の秋、注目の催し情報



### 「東郷青児 蔵出しコレクション ~異国の旅と記憶~」

モダンな美人画で知られる画家、東郷青児(1897-1978)は、24歳から7年間をフランスで暮らし、63歳以降は毎年のように海外を旅してまわりました。本展では、日本とフランスを起点にした国際性を東郷の本質のひとつとみなし、旅先で見たもの、持ち帰った物、それらに刺激を受けた作品などを通して、生涯、異国に強烈な興味を抱き続けた活動の足跡をたどります。油彩、素描、彫刻、デザイン、写真資料など、貴重な収蔵品約130点を展示。東郷の眼を通して、世界の旅が楽しめます。

読者15組30名様に「東郷青児蔵出しコレクション」チケットをプレゼント!

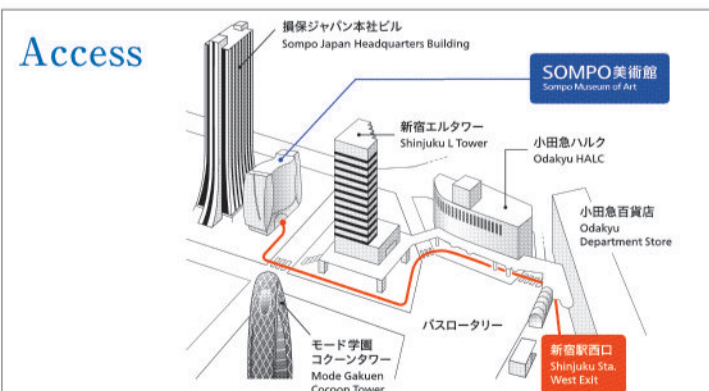
https://que.digital.lasahi.com/epost  
応募締め切り:11月6日(金)  
※応募者多数の場合は抽選の上、発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます  
※個人情報保護法に基づき、上記WEBサイトに記載された目的にのみ利用します

### 新テレビCM「ゴッホの夢」篇を放映!

損保ジャパンの新テレビCM「ゴッホの夢」篇を全国で放映開始します。ゴッホが数々の名作を生み出したフランスのアールを舞台に、作品のモチーフとなった糸杉や跳ね橋、ひまわり畑、カフェテラスなどが次々と登場します。ゴッホは浮世絵にふれて、日本に憧れ、自然の美を求めてアルルに移り住んだといわれています。実際に日本を訪れることはありましたが、SOMPO美術館が所蔵する《ひまわり》が、ゴッホの夢を叶えたともいえます。印象派の作曲家ドビュッシーの名曲「夢」を都会風にアレンジした楽曲とともにゴッホの世界観をお楽しみください。



ご視聴はこちら



【ご来館のお客様へ】  
・入館時の検温・消毒、マスク着用などのご協力をお願いします  
・現在チケットは事前予約制です  
・現在は休館中。次回開館は11月11日(水)です